

4カ国の個性派マエストロたちが紡ぐ多彩な音の饗宴

指揮者とオーケストラのいい関係

柴田克彦(音楽ライター)

ユーリ・テミルカーノフ指揮
サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団

[指揮] ユーリ・テミルカーノフ
[ヴァイオリン] 庄司 紗矢香
[管弦楽] サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲
：交響曲 第4番

2014 **1/25(土)** 2:00pm
A 18,000円 B 15,000円 C・D 売切

お問い合わせ：ABCチケットインフォメーション
06-6453-6000

関西フィルハーモニー管弦楽団
第253回定期演奏会

[指揮] オーギュスタン・デュメイ
[ヴァイオリン] 成田 達輝
[管弦楽] 関西フィルハーモニー管弦楽団
ロッシーニ：「セヴィリアの理髪師」序曲
パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲 第1番
ベートーヴェン：交響曲 第6番「田園」

2014 **2/12(水)** 7:00pm
S 5,000円 A 4,000円
B 3,000円 学生 1,000円

お問い合わせ：関西フィル事務局 06-6577-1381

ザ・シンフォニー特選コンサート Vol.19
山田和樹 & 金子三勇士 & 大阪フィル
～ベートーヴェン「皇帝」「英雄」～

[指揮] 山田 和樹
[ピアノ] 金子 三勇士
[管弦楽] 大阪フィルハーモニー交響楽団
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」
：交響曲 第3番「英雄」

2014 **2/15(土)** 3:00pm
A 5,000円 B 4,000円 C 売切

お問い合わせ：ABCチケットインフォメーション
06-6453-6000

日本センチュリー交響楽団
第189回 定期演奏会

[指揮] クリスティアン・アルミンク
[ピアノ] 上原 彩子
[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番
ブラームス：交響曲 第2番

2014 **3/6(木)** 7:00pm
A 6,000円 B 4,500円 C 3,000円
D 売切 車いす席 3,000円

お問い合わせ：センチュリー・チケットサービス
06-6868-0591

ご予約：ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333 (2014年1月6日営業開始)



©Dieter Nagl

明晰かつチャレンジングな ウィーンの貴公子

クリスティアン・アルミンク
Christian Arming

ウィーンに生まれた本場の血筋と、アメリカで小澤征爾の薫陶を受けた国際的感性を併せ持つ俊英。2003年僅か32歳で新日本フィルハーモニー交響楽団の音楽監督に就任。以来10年に亘って情熱を傾け、楽団の水準を大幅に向上させた。特徴は意欲的なプログラミングと明晰な解釈。オペラの全曲や名曲と現代曲の混合などプログラムは常に刺激的で、演奏は端正かつ密度が濃い。ノーブルな容姿ながら、会話には日本語も挟み、地元住民との交流も積極的に行う姿勢は実にフレンドリー。当然オーケストラに対しても信頼関係を重んじ、以前話した際には「理想は指揮をしなくてよい状態」と語っていた。現在ベルギーのリエージュ国立フィルハーモニー管弦楽団芸術監督を務める。今のところ日本では客演のみゆえに公演は貴重。



世界の檣舞台への 躍進止まらぬ新世代の旗手

山田 和樹
Kazuki Yamada

2009年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝以来、快進撃を続ける若きマエストロ。2012年から名門スイス・ロマンダ管弦楽団の首席客演指揮者や日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を務め、パリ管弦楽団やチェコ・フィルハーモニー管弦楽団等にも客演するなど、内外で引く手あまたの存在となっている。学生時代に自らのオーケストラを組織するほどの統率力と、柔和な面持ちで人心を掴むコミュニケーション力は、俊英陣の中でもピカイチ。これらをベースに、明快な作品解釈と「しなやかなリズム感」と称される的確なタクトで説得力抜群の音楽を生み出し、楽員と聴衆の双方を魅了している。ときに捻りを加えたセンスあるプログラムも毎回要注目。大阪フィルハーモニー交響楽団との相性のよさも見逃せない。

ソリストの栄光映す エレガントなパリジャン

オーギュスタン・デュメイ
Augustin Dumay

何と言っても彼はフランスを代表する名ヴァイオリニスト。カラヤン率いるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、小澤征爾、サヴァリッシュ等の大指揮者やロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ロンドン交響楽団等の著名オーケストラと共演し、ピアノのピリスとのコンビでも名を馳せたキャリアは、一頭地を抜いている。近年加速する指揮活動では、この経験を投影した豊饒な音楽作りと、ヴァイオリンを弾きながら指揮する“弾き振り”が他者にはない強み。特に専門家の精髓を直に伝える弦楽セクションの奏法や歌い回しは注目に値する。2008年から首席客演指揮者、11年から音楽監督を務める関西フィルハーモニー管弦楽団は、いま彼にとって最も親密なパートナー。今回は成田達輝の佳き助演と「田園」の新鮮な描写に期待。



艶美な音をキャンバスに描く ロシアの魔術師

ユーリ・テミルカーノフ
Yuri Khatuevich Temirkanov

75歳を迎えたロシアの重鎮。1988年、50年間君臨した独裁者型の巨匠ムラヴィンスキーの後を継いでサンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の音楽監督に就任。以来25年間ロシアNo.1の牙城を揺るぎなきものとしてきた。厳格な前任者と違って、楽員の自発性を巧みに引き出しながら、音楽に行間や余裕を与えるのが彼の方向性。指揮棒を使わず、両手を躍動させて多彩な音楽を生み出す様は、まるで魔術師のようだ。イギリス、アメリカ、イタリアの楽団や歌劇場でもシェフとして活躍してきたグローバルな視点も魅力に寄与。元来の強靱さに艶やかで壮麗な色彩感を加えた同楽団とのコラボは、オーケストラ音楽の凄みを実感させてくれる。特に今回は、チャイコフスキーで本場の真髄を発揮。

自らはひとつも音を出さないけれど、オーケストラの音楽を決定づけるうえで重要な役割を果たす、指揮者という存在。事前に作品を研究して解釈を練り上げ、それぞれ作品に独自の解釈を持った100人近くのプロの演奏家を束ねあげる。一度に方々から鳴る楽器の音を聴き分け、理想とする音楽に近づけるための細かい指示を加えてゆく。豊かな感性、深い知識、良い耳、そしてオーケストラ団員がつい従わずにはいられないカリスマ性が求められる役どころだ。ここでは、さまざまな個性を持つ今シーズンに登場する注目の指揮者たちをご紹介します。

ちょっと解説!

MINI COLUMN

往年のマエストロたち

大指揮者は当然みなカリスマだ。だが「ここにいるだけで音が変わる」大カリスマ型のフルトヴェングラー、癪癪を爆発させて楽員を凍り付かせた独裁者型のトスカニーニなど、往年の巨匠は圧倒的にキャラが濃い。20世紀後半に人気を二分したカラヤンとバーンスタインは好対照。“帝王”と称されベルリン・フィルを意に沿わせた前者は独裁者型、楽員から(守衛や掃除夫からも)「レニー」の愛称で呼ばれた後者はフレンドリー型といえる。同時代の異端児チェリビダツケは、晩年“大カリスマ型&独裁者型”になり、もう1人の最後のカリスマ、カルロス・クライバーは、キャンセルの多い気まぐれ型だが、リハーサルで微細な説明をする理屈型(?)でもあった。